

2020年5月5日

仏沼のラムサール条約登録域の動植物および環境の保全目標（2案）

全体的な目標

- ①オオセッカの恒久的な繁殖地として機能する。
 - ・繁殖期に200羽程度の囀りオスが生息する。
- ②絶滅危惧鳥類7種（ウズラ・カンムリカイツブリ・サンカノゴイ・オオヨシゴイ・シマクイナ・チュウヒ・コジュリン）が繁殖期に生息する。
 - ・カンムリカイツブリ1-2つがいが営巣する。
 - ・チュウヒ2-4つがいが営巣する。
 - ・ウズラ・サンカノゴイ・シマクイナが毎年確認される。
 - ・オオヨシゴイが数年に1回程度確認される。
- ③絶滅危惧の水生昆虫と湿生草本が生息する。
- ④外来種（ブラックバス・ブルーギル・ウシガエル・アメリカザリガニ・オオハンゴンソウ等）が生息しない。

環境別の理想状況と現在の問題

①三角池とトンボ池

理想：通年に渡って水がある程度あり、多種多様な水生昆虫・在来魚類・水生植物が生息する。外来種がない。チュウヒが営巣し、サンカノゴイが生息する。

問題：三角池は水が少なく、年によっては干上がってしまう。チュウヒが営巣しなくなった。トンボ池は頻繁に干上がるようになった。

②低層ヨシ環境（ヒライ群落）

理想：通年に渡って湿り気があり、低いながらもヨシが疎らに生え、下草が多い。シマクイナ・オオセッカ・コジュリンが生息する。

問題点：乾燥化。ヨシの衰退。ヤナギの生育。

③中層ヨシ環境

理想：通年に渡って湿り気があり、ヨシが疎らに生え、下草が多い。ウズラ・オオヨシゴイ・シマクイナ・オオセッカ・コジュリンが生息する。

問題点：乾燥化とススキ草原への遷移。

④高層ヨシ環境

理想：通年に渡って湿り気がある。オオヨシキリが生息する。

問題点：域内の南部に広がる。一部を水浸ヨシへ転換する必要がある。

⑤水浸ヨシ環境（高層ヨシに水が浅く溜まった状態）

理想：チュウヒが営巣し、サンカノゴイ・クイナが生息する。水中には多種多様な水生昆虫・在来魚類・水生植物が生息する。外来種がない。

問題点：適切な管理が無ければ、数年で高層ヨシ環境または開放水面に変わってしまう。ウシガエルが侵入・生息。

⑥平成池

理想：開放水面は 1 ヶ所のみで、カイツブリ・カンムリカイツブリ・オオバンが営巣する。多種多様な水生昆虫・在来魚類・水生植物が生息する。外来種がない。

問題点：水質悪化。ウシガエルが侵入・生息。